

## 救世主の横暴

(永遠の眠りへと誘<sup>いざな</sup>う橋がある

それを渡る前に、せめてひととき  
まどろむことを許したまえ )

「それは許されぬ」

\*

システムが俺達の後を無言で尾行する  
誰ひとりその事実を口にしない  
はっきりとわかっていながら・・・

社会はあいつらと取引を継続している  
指先で何でもこなせる便利さと引き換えに  
社会のあらゆる統制を委託する、という

まるで魔術のように

大気に満たされた警告<sup>アラート</sup>の文字  
一度躓いたら、それが最後なのだ、という

ある指導者は分かっていた  
「再チャレンジ」の困難さを、そして  
自ら押し潰されていったのだ

競争原理プログラム

その中に「慈悲」の文字はない  
システムにとって不要なその文字は・・・

お前が俺の退路を断ったのだ  
そして俺の手を衝き動かしたのだ  
前へ、ひたすら前へと

己が死さえ選ぶこともできず  
削除されることを思い、さまよう・・・  
そして線路へと突き落とした

滑り込んでくる電車の重量と  
車輪と線路との間のわずかの摩擦  
それが俺の罪状を左右する

\*

(永遠の眠りへと誘<sup>いざな</sup>う橋がある

それを渡る前に、せめてひととき  
まどろむことを許したまえ )

「それは許されぬ」

(2008.3.30)